



採算可視化からはじめる“物流経営”

倉庫オペレーション × 収支可視化 × 採算管理

作業を「利益」に変える ～「安定」という**感覚**を「利益」という**確信**に～

W³ Accounting / 採算ダッシュボード

売上

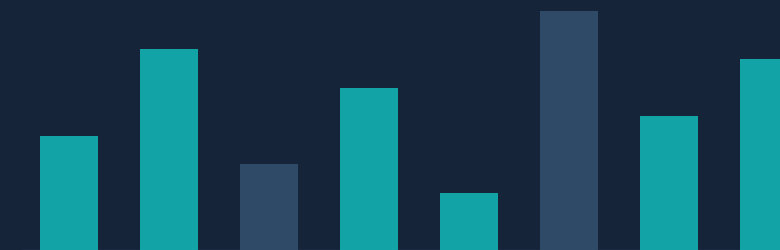
¥20,789

利益率

9.4%

荷主別P/L

日次



ISO27001



荷主ごとの粗利率・営業利益率、どこまで把握できていますか？

見えていないのは、現場の能力ではなく、採算を映す“仕組み”です。

収支を出すので、精一杯

01

荷主・センターごとにやり方がバラバラで、横比較ができない。数字を“作る”ことに力を使い切り、“使う”段階まで進めない。

採算が、月次でしか見えない

02

締めて初めて分かるので、打ち手は常に後手。単価が妥当かどうか、他案件と並べて比較できない。

荷主別の原価が、見えない

03

売上と原価が紐づかず、どの荷主で儲かっているか不明。黒字の荷主が、赤字の荷主を無自覚に支えている。

これらは担当者の能力不足ではなく、採算を可視化する“仕組み”がないことが原因です。

採算のブラックボックス化は、知らぬ間に企業の利益を蝕んでいる

担当者の問題ではなく、経営として向き合うべき4つのリスク。

黒字が、赤字を補填し続ける

荷主別の損益が見えないと、儲かる荷主の利益が、気づかぬうちに赤字荷主の穴埋めに消えていく。

値上げ・撤退の判断が後手に回る

採算の根拠が手元にないため、料金改定や契約見直しのタイミングを、いつも逃し続けてしまう。

改善ノウハウが、人に貼り付く

やり方が標準化されず、できる人だけが回す状態に。横展開も、引き継ぎも進まない。

複雑化・ブラックボックス化が進む

場当たりの対応が積み重なるほど、後から仕組みを直すコストは上がり続ける。

採算の不在は、今日は痛まない。だからこそ、待つほど取り返しがつかなくなります。

現場視点の「時間生産性」を、経営視点の「利益」へと変換

現場は時間を追い、経営は利益を追う。両者を一本の線でつなぐのが W3 Accounting です。



現場は忙しい。しかし「どの作業が利益に効いているか」は、つないで初めて見えてきます。

サービス全体像

現場の実績データを収集・統合し、経営判断の情報へ変換するワンストップ基盤。



現場の実績データが、翌朝には“経営判断に使える情報”に変わります。

採算からはじめる、経営管理の拡張

まず採算を可視化し、生産性・請求へと段階的に広がられます。

01

採算管理

まずここから

- 日次 P/L で収支を可視化
- 荷主別・案件別の損益管理
- 翌朝には、昨日の採算がわかる

02

生産性管理

深掘り

- QR打刻で工程別 KPI を算出
- 人時生産性をリアルタイム把握
- ボトルネックの特定と改善

03

請求自動化

さらに

- 複雑な請求ロジックを GUI 設定
- 荷主別・費目別の自動計算
- PDF・CSV 出力に対応

導入起点は、貴社の課題に合わせて選択可能。採算を入口に、経営管理へと無理なく広がられます。

導入事例 / YellowTail 株式会社

POC での検証を経て、採算・生産性の“見える化”を実現。

YellowTail 株式会社

業種

3PL・倉庫運営

導入前の課題

荷主別の採算が月次の締めまで見えず、どこで利益が出ているかが不明。原価の配賦もできず、料金改定の根拠を持ってないことが課題でした。

導入効果

隠れ赤字荷主

3 社

を特定

黒字荷主による無自覚な補填を可視化。

収益改善

+¥1.8M / 月

を実現

データを根拠に料金改定・業務是正を実施。

人時生産性

+12%

改善

工程別ボトルネックを特定し標準化。

「どの荷主で儲かっているのか、初めて“数字”で見えるようになった。」

収支把握 : 月次 → 日次化 YellowTail 株式会社 / 担当者

従来の「カスタマイズ開発型のシステム」と、何が違うか

重い・高い・長い——その“後回しの理由”を、設計からなくしました。

	従来：個別開発（SIer）	W3 Accounting
導入方式	フルスクラッチ／個別開発	ノンカスタマイズ（設定ベース）
費用	数百万円～の開発費＋保守費	定額 月額 ¥20,000～
導入期間	数ヶ月～	2～3 週間
指標・配賦の変更	ベンダーへ依頼・追加見積・改修待ち	画面で、自分で、その場で変更
現場への適合	汎用会計・ERP は工数／配賦に弱い	物流現場起点（QR打刻・工程別・荷主別）

「重そうだから、いつか」——その“いつか”を待つ間にも、仕組みは複雑化していきます。

安心して始められる、導入プロセス

はじめてのシステムでも、現行の数字と照合してから本番を迎えられます。

STEP 1 設定

GUIで指標・配賦・締めを設定

STEP 2 照合

現行の請求・収支と突き合わせ

STEP 3 本番

完全一致を確認してから切替

導入支援サービス

はじめて触れるシステムで重要な業務を回すのは不安なもの。設定方法の説明から実際の設定作業まで、お客様の状況に合わせて伴走支援します。

標準導入期間

2～3 週間 (初期設定・データ移行・研修を含む)

稼働前に、答え合わせを

「本当に正しく計算できているか」を確認してから本番稼働します。現在の請求・収支と W3 Accounting の計算結果を突き合わせ、完全一致を確認してから切り替えます。

「いきなり数字が変わった」が起きない、安心の導入プロセスです。

システムの本当の価値は、
オペレーションを整理・仕組み化・標準化できること。

複雑化・ブラックボックス化が進む前に。—— まさに“今”こそ導入すべき。

いまの“安定”を、“利益”という確信に変える。